

金沢市横谷でミヤマカラスシジミを採卵

野中 勝・金子 二久

県内での記録が比較的少ないミヤマカラスシジミの卵を以下の如く採集したので報告する。

採集地は小さな深谷の斜面で、オニグルミ林の林床に高さ2m位のクロウメモドキが点在し、7~8本調べたうちの2本から卵を発見した。

同時にオニグルミからオナガシジミ卵を、エノキからオオムラサキ幼虫を確認したので付記しておく。

ミヤマカラスシジミ 18卵
1983年11月15日

金沢市横谷

ミヤマカラスシジミの記録

板井 正人

石川県内に於るミヤマカラスシジミの記録としては、最近まで、白山岩間^(*)の1例しか知られておらず、県内のミヤマカラスシジミは最稀種の一つとなっていた。

ところが、1981年秋から82年春にかけて、白山釈迦岳^(**)、吉野谷村木滑^(*)からあいついで卵の確認がなされ、ついに1982年秋に、金沢市菊水^(*)、吉野谷村木滑^(*)より生卵が採集された。

1983年5月1日には、蝶談会有志により、金沢市菊水に於て、採卵が行われ、多数の幼虫も得られ、これによって、県産ミヤマカラスシジミは一考に手の届く存在となってしまう。

として、1983年秋には、各地で採卵が行われ、次の様な新産地が発見された。

| 採卵地 | 採卵日 | 採卵者 | 採卵木 | 採卵数 | 備考 |
|---------|-----------|-----------|---------|------|-------|
| 金沢市横谷 | '83-11-15 | 野中勝 | クロウ×モドキ | 18卵 | |
| " 養池 | '83-11-21 | 中西重雄 | クロウ×モドキ | 32卵 | 川沿 |
| " 島尾 | '83-11-25 | 松井正人 | クロウ×モドキ | 6卵 | 川沿 |
| " 河内 | '83-12-10 | 松井正人 | クロウ×モドキ | 23卵 | 狭い谷の中 |
| 河内村板尾大谷 | '83-12-15 | 松井正人 | クロウ×モドキ | 1卵 | 川沿 |
| " 口直海 | '83-12-15 | 松井正人 | クロウ×モドキ | 40卵 | 川沿 |
| 首野各村瀬波谷 | '83-12-4 | 中西重雄 松井正人 | クロウ×モドキ | 約70卵 | 川沿 |

- *1) 武藤 明 (1958) とっくりばち No.6 1957年7月15
 *2) 野中 勝 (1982) 翔 No.27 クロウ×モドキ卵1卵 孵化後1. 寄生卵1
 *3) 松井正人 (1982) 翔 No.34 クロウ×モドキ卵14 死卵14
 *4) 野中 勝 (1982) 翔 No.35 クロウ×モドキ卵1卵 生卵16
 *5) 松井正人 (未発表) クロウ×モドキ卵1卵 生卵12

金沢市内におけるホソバセセリの記録

吉村 久貴

本年(1983)7月23日、金沢市内川～菊水にかけて、セセリチョウ科数種を採集しているので報告する。

金沢市住吉

住吉部落より倉ヶ岳に至る林道沿いのヒヨドリバナに多数のセセリチョウが吸蜜に来ていたが、みんなボロ。

近くのススキの葉上をよく見ると、小さいな金黒色にぼんやりとした白紋のある裏面をしたホソバセセリが止まっていた。

2羽を採集したが、全く動きが鈍く、同時に採集したダイミョウセセリと対照的だった。

金沢市菊水

うわさに高いミヤマカラスシジミ成虫を狙って、菊水にアタック。

ヒメジョオンに吸蜜に来ていないかと、さかんにたたくて回るが、飛び出ない。

結局、ヒメジョオンの花に来ていたトラハナムグリ2exsを採集したが、ミヤマカラスシジミは、姿を見ることかできなかった。

また、ヤヤボロのホソバセセリ1羽も採集した。

長野県へヒメギフを造って南北

その1 北編-----北安曇郡小谷村

吉村 貴己

1983年5月1日、長野県北安曇郡小谷村黒川へ春の白い胡蝶ヒメギフチョウを造って、帰省がてら行って来ました。

この地方のヒメギフチョウは、他産地のものに比べると色白で有名であり、ヒンクラ氏の奨めもあって、この地へ採集に行くことにしました。

しかし、最初のヒメギフの採集行であり、採集ポイントについては無知であったので、南小谷駅でヒンクラ氏と母と待ち合わせということにしました。

4月の初め東京へ引越してから最初の帰省であるということと、久しぶりの電車行であるということ、更に初めてのヒメギフ採集行ということもあって、前日から心がうきうきして、春先の殺風景な山腹を背景にヒメギフが翔ぶのが頭に浮かんでいました。

4月30日の英語の講義が終わってから、みやげを買って、ついでに月刊むしの猪又氏を訪れて用事を済ませて、夜中の新宿発のアルプス9号に人王子で乗りました。

むし社へ着いた際、猪又氏に「この時期ヒメギフは難しい」と言われ、少々気落ちしましたが、とにかく家へ帰るということと頭がいっぱいで、張り切ってアルプス9号に乗りました。

アルプス9号の中は、登山客でいっぱいである所もないといった状態でしたが、なんとなく寝て少し寝ました。

翌朝早く、南小谷に着いてアルプスを降りると、駅前にマークIIが停車していました。ヒンクラ氏と母と会って、マークIIの中で朝食をとり、小谷村黒川へと向かいました。

小谷村黒川は、姫川をはさんで国鉄と反対側に位置しています。ポイントには数多くのカタクリがあって、ヒメギフが吸蜜にやって来そうな環境でした。

現地に着いたのが朝早くであったため、ヒメギフが翔ぶには、まだ早いと思い、森林帯の中のウスバサイシンの葉裏を捜したところ、簡単に11卵塊、170卵ほど見つけました。

9時頃から11時半頃までの2時間半の間、黒川の斜面のあちこちを歩き回り、10時頃、ヤヤボロの雌を1頭ヒンクラ氏が採集し、それから筆者がホボ完品の2羽を採集しました。

午後は、午前中に採卵した卵のために大綱へ、ウスバサイシンを取りに向かいました。

大綱は、以前よりヒメギフとギフの中間交雑種が産したことで

有名でしたが、そのポイントには、なんと「姫川猛獣パーク」という子供だましのものができ、横には大きな駐車場ができていました。猛獣パークの入口の横には、『ウスバサイシン・ヒメギフチョウの採取を禁ず』という看板が立てられていましたが、「本気でヒメギフを保護する気なら、くだらん遊び場なんか作るな!!」というのが筆者の感想でした。

大綱小学校の裏で、ウスバサイシン約100株と、飼育用の葉っぱ300枚ほどを採取して帰沢した。

※1) 翔 №34 小谷村ヒメギフ採集記 吉村久貴 (1982)

※2) 翔 №37 長野県産ヒメギフの斑紋変異について 吉村久貴 (1983)

広島市内でのサツマジミの採集例

吉岡 泉

サツマジミは、^{※1)}南方系のチョウで、古くから広島市何宇品と宮島が本州での生息地として知られていたが、最近内陸部や中国山地でも夏季には採集されている。既知産地としては、佐伯郡(吉和村・冠山)、山県郡(怒羅漢、筒賀村、平河内町、芸北町)、広島市(可部町、安佐町)、呉市(二河峡)、安芸郡(大黒神島)などがある。

筆者は、1983年7月12日に広島市内にある北治山^{ひびやま}へ出かけた際に、サツマジミ1♂を採集したので報告しておく。上記既知産地のうち広島市内については、北部の可部町、安佐町しか挙げられておらず、市内中心部に近い北治山での記録なので、参考のため報告することにした。

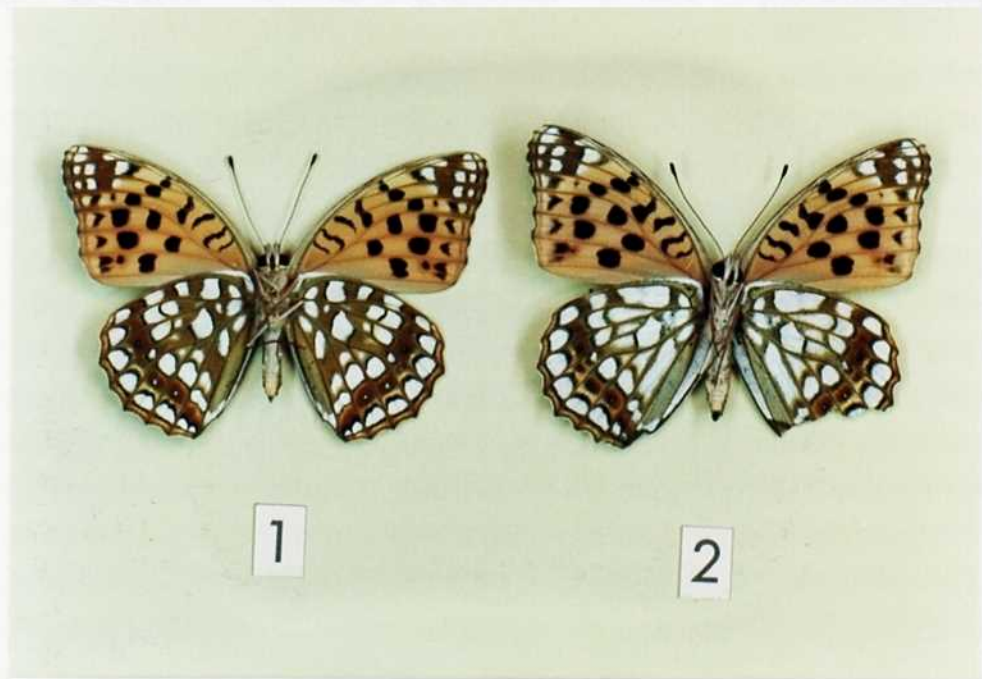
(データ) サツマジミ 1♂ 1983年7月12日(火)
AM 11:00頃採集 天候:晴れ

※1) 『広島県のチョウ』(広島虫の会編・中国新聞社刊)
171頁 サツマジミの項より引用。

ウラギンヒョウモンの白斑発達異常型

吉村 久貴

1983年8月8日、石川郡白峰村湯ノ谷にて、写真のNo.2の様なお裏面白斑の発達したウラギンヒョウモン1年を採集したので報告する。



No. 1 長野県志賀高原高天ヶ原産 1974年8月 採集
 No. 2 石川郡白峰村湯ノ谷産 1983年8月8日 採集

写真No.1は、対照とした正常型個体例である。No.2では、裏面白斑が、後翅基部に近い方から流れる様に広がっており、隣の斑紋とつながっているところもある。

この個体は飛んでいる時でも、明らかに白化異常がわかる感があり、ヒョドリバナに吸蜜のため静止した際、異常を確認してからネットした。

白いアサマシジミ幼

板井 正人

1982年5月30日、富山県魚津市片貝川南又谷にて採幼したアサマシジミの中に、アルビノみたいに白化した幼虫が1頭混じっていた

ので報告する。

この白化した幼虫が採集時に既に白かったのか、終令に脱皮した時に白くなったものかは、はっきりしないが、10頭位同じ容器内で飼育している時に、その中の1頭が終令時に白かったことが、記憶に残っている。

この幼虫からどんな成虫が羽化するか楽しみで、たぶん白っぽいアルビノ風成虫が羽化するものと期待をよせていた。

白い幼虫は白い蛹となったまでは良かったのだが、蛹期が進むにつれ、他のアサマシジミと区別がつかなくなり、成虫になっても全く区別がつかなかった。

このアルビノ君からは白い成虫が出るものとたかをくくって、並のアサマシジミと同じ容器で飼育していたために、どの個体がこのアルビノモドキであったかは、蛹の時点より全くわからなくなってしまった。

この白いアサマシジミの幼虫が存在した事実は、数枚のスライドに並のアサマたちと共に残っている。

岩間丸石谷ゴマシジミ探索谷底降り

中西 重雄

事の始まりは、6月に野中・松井両氏と共に石川郡尾口村岩間丸石谷へアサマシジミの調査に出掛けた時に、松井氏より丸石谷にゴマシジミが産することを聞きつけたことである。

1982年に、岐阜県高山市原山で採集したゴマシジミがとても気に入る、石川県にも産するのなら、ぜひ採ってみたいと思い、何回かにわたり丸石谷にアタックしてみることにした。

1983年7月23日(土) くもりのち雨

白山のゴマシジミは、7月下旬～8月が発生時期にあたるらしく、少々時期的に早い調査することにした。この日から丸石谷谷底降りが始まるのである。この日は食草であるカライトソウらしきものを数株発見して家へ持ち帰った。

7月24日(日)

前日持ち帰った株を松井氏に確認してもらい、カライトソウである事が判明した。ゴマシジミのポイントがあつているかわからないので、松井氏にお願いし、ゴマシジミの松井ポイントへ案内

してもらい、林道からポイントを確認した。

この日は雨が降っていたが、ネットも持参していたので、何でも採る身にした。クガイソウで吸蜜していたコチャバネセセリ、キマダラセセリ、ホシミスジなどの他に、丸石谷で記録されていなかったキバネセセリ1匹のおみやげつきであった。

7月29日(金) くもりのち晴

午後から谷底降りに出掛けた。林道から谷への道は、岩やガレ場で非常に危なく、足にスリキズだらけの谷降りである。が、しかし、ゴマシジミへの執念が谷へ谷へと招くのであった。

この日もダメかと思いつつ谷川の大きな石に腰かけて、カライトソウの小さなツボミを見つめていると、崖の上の方から1頭の黒い蝶が下へ降りたり、上へ昇ったりしている。

これだと思い、カー杯ネットを振る。これが最初に採れた1頭であった。

8月7日(日) 晴

この日はとても暑く、34℃もある日であった。しかし、谷底まで降りるとなんとなく涼しく、崖のカライトソウを見ると小さな赤い花がいくつかが開花している。

そして目当てのゴマシジミも上から下へ、下から上へと翔んでいるのではないかと。しかし、なかなかネットできず、結局、この日は6~8頭目撃したのだが、2頭しか採集できなかった。ゴマシジミもなんとか採れたので私は満足しているし、谷底降りもこれで終わりにする。

尚、丸石谷のゴマシジミは8月上旬に採集に行けば、少々採れると思います。また、紙上をかりて、松井氏の御指導に深く感謝します。

文献 翔 No. 10 白山のゴマシジミ 松井正人(1980)

トラフシジミの食樹二種の記録

野中 勝

(1) ウツギ

1979年6月23日、吉野谷村中宮温泉のウツギの花より1終令幼虫を採集。持ち帰ったところ寄生バエが脱出した。

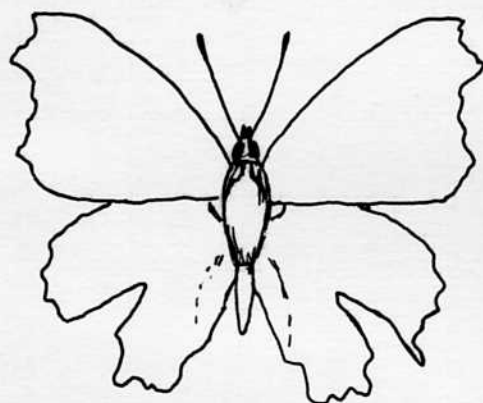
(2) トチノギ

1984年6月13日、同じく中宮温泉集で蝶談会の鉄板焼大会が催された際、トチノギの花より1若令幼虫を採集。トチの花を与えて飼育し、7月2日1令が羽化した。

鳥に襲われたヒオドシチョウ

野中 勝

1983年6月15日早朝、アイノフジを求めて医王山を訪れたところ、鋭い鳥の鳴き声と共にヒオドシチョウが数mの崖上から林道へところがり落ちてきた。



採集してみると左図の如く、明瞭なくちばしの跡が認められたので、ヒオドシチョウが鳥に襲われた例として報告しておく。
残念ながら筆者は浅学にして、鳴き声にて鳥の種名を識別することはできなかつた。

図：写真をトレースしたもの

採卵会・雨の中でビールを飲む

松井 正人

これは蝶談会の家族サービスを兼ねた大採卵会の記録です。大採卵会というのはただ単に人が多かつただけの事で、総勢14名、子供が6人程混っていました。

狙いはヒサマツとビールで、焼肉が狙いの人もいました。

1983年10月16日はくもり、車3台に分乗して高知県婦負郡細入村加賀沢へ。メンバーは嵯峨井(5)、中西(5)、松井(2)、野中(1)、松田(1)

で、嵯峨井・中西組は一家総動員。

成果はウラジロガシよりヒサマツ多数、アイノガシ、大きなサクラの木よりメスアカ約10卵、芽を2、3個見ただけのオニグルミよりオナガシジミ5卵でした。

午前中はくもりの天候ですすまざる採卵日和でしたが、昼食パーティー中、それも今からまさしくビールを飲もうとしている頃から大雨が降ってきて、雨でシャブシャブのビールを飲むことになってしまいました。

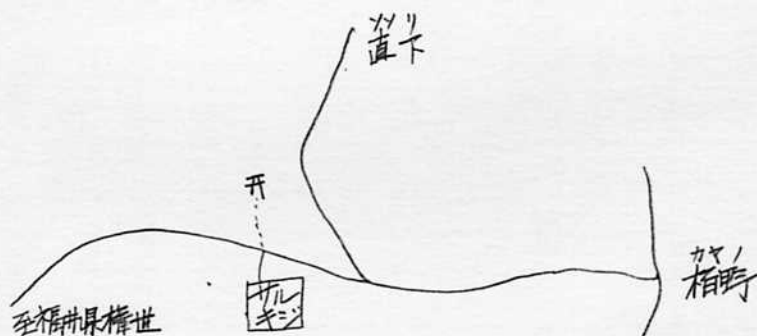
この年の採卵会は、何故かこの時から突然の悪天候にみまわれるようになってしまいました。

刈安山採卵行

松井 正人

石川県と福井県との境に刈安山があり、頂上付近は森林自然公園になっていてサルやキジが飼われている。

この547mの山には3方から車道がついていて、ヒコゴでも楽に行けそうなので 1983年10月22日、2人で採卵に出かけた。



さすがに森林自然公園へ続く道だけに、林道脇には点々ヒサクラが植えてあり、メスアカでもないものか、と、チョット手を出してみたが何もなし。頂上付近のサ

クラにも手を出したが、スカだった。

また、この山にはアカガシが多く、おいしそうなお芽をたくさん付けていたので、キシマがいなかと約1時間がんばったが芽ばかりであった。

ここで目を引いたものは、林床に点々とあるナタデラカンアオイであった。

アカガシのある斜面よりやや下った所にウラジロガシもあったので、今度はヒサマツに挑戦したものの、全く相手にしてもらえな

った。
結局のヒコ。刈安山採卵行は全くのボウズだったのです。

《例会の記録》

184-3-10(土), PM7.00~11.00, 中西宅.
参加者, 中西夫妻, 松井夫妻, 金平
竹后, 井村, 野中, 井R, 高平,
近藤, 吉村兄, 山崎村井の3名。
記録は, 井村氏別日本産甲虫図鑑
4巻冊の発行について, 近藤氏別。

金沢市平栗地内の市民の森建設反対運
動についての提言, 吉村氏別山梨北巨
摩産のオクワガタ報告, 中西氏別時岳の黄
水産のかアオハは近藤氏の同意によりタテシ
ンアオヒと判明。嶺北井別産見取大月市朝
日産のクリヨアHP及びスジカバ, ヲアカウサキ
アタテハトキ等の三角紙標本の提供。
※の地産会別)

目 次

| | | | |
|------------------------|----------|------|---|
| 金沢市横谷でミヤマカラスシジミを採卵 | 野中勝・金子二久 | 1 | |
| ミヤマカラスシジミの記録 | 松井正人 | 1 | |
| 金沢市内におけるホソバセセリの記録 | 吉村久貴 | 2 | |
| 長野県へヒメギフを追って南北 との北編 | 北安曇郡小谷村 | 吉村貴己 | 3 |
| 広島市内でのサツマジジミの採集例 | 吉岡 泉 | 4 | |
| ウラギンヒョウモンの白斑発達異常型 | 吉村久貴 | 4 | |
| 白ハアサマジジミ幼 | 松井正人 | 5 | |
| 岩間丸石谷ゴマシジミ探索谷底降り | 中西重雄 | 6 | |
| トラフシジミの食樹二種の記録 | 野中 勝 | 7 | |
| 鳥に襲われたヒオドシチョウ | 野中 勝 | 8 | |
| 採卵会・雨の中でビールを飲む | 松井正人 | 8 | |
| 刈安山採卵行 | 松井正人 | 9 | |

新編 No 45

1984 年 10 月 1 日 (月) 発行

発行：金沢市大場町東891-15 松井正人氏・百万石蝶談会

編集校正：吉村 久貴